

衣服型が冷輻射中の深部体温と概日リズムに与える影響

奈良女大家政 ○緑川知子、登倉尋実

(目的) 冷輻射時の温熱生理反応について明らかにし、衣服型並びに概日リズムによる影響を調べる。(方法) 被験者5名についてそれぞれ、長袖長ズボン着用時あるいは半袖半ズボン着用時に、室温、壁・天井温ともに28℃で安静に保った後、壁温・天井温のみを28℃から18℃に降下させた際の、温熱生理反応を午前9:00~11:30と午後4:00~6:30に測定した。(結果) 中核温は、午前午後とも、冷輻射により長袖着用時に下降したが、半袖着用時には安定したレベルを維持し、長袖着用時よりも有意に高くなった(図1)。概日リズムの影響は体幹部皮膚温と中核温にみられ、午前より午後の方が有意に高い値を示した。四肢部皮膚温は輻射冷却により下降を示すが、衣服型の影響が現れ、長袖着用時に半袖着用時よりも有意に高くなった。

